

黙示録 20 章 12 節-21 章 1 節 スタディーガイド

千年王国（メシア王国）の最後に、あらゆる時代のあらゆる人々が、審判のために復活します。

★ 黙示録 20 章 12 節-15 節

また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのこの自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

12 節「死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っている」
魂がハデスにいて、お墓の中で眠っていた体が復活して、魂と合体した状況です。

アダムとエバが罪を犯す前は、霊、魂、体を持っていましたが、罪によって、神様を霊と真をもって礼拝できなくなりました。
イエス・キリストを信じる者は、霊が復活し、**霊と真を持って神様に近付くことができます。**
未信者も魂を通して全員、永遠の命を持っています。

12 節「数々の書物が開かれた。」
一人ひとりの人生が書物に書き記されており、多くの種類の書物があります。

12 節「また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。」
数々の書物の中で「いのちの書」と呼ばれる書物があります。

詩篇 139 篇 16 節「あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。」
すべての者が、胎児の時に書物に書き記されると考えられます。

詩篇 69 篇 28 節「彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることはありませんように。」

神様を信じることなく死んだ者たちの名前は、消し去られると考えられます。

黙示録 13 章 8 節「小羊のいのちの書に、世の初めからその名が書きしるされていない者」反キリストの働きに参加し、惑わされ、彼を拜む人々です。

「小羊のいのちの書」に書かれている者たちは、世の初めから選ばれている者です。全知全能の神様が、救われる者をご存知であるがゆえに、選ばれたと考えることができます。

黙示録 20 章 12 節「死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。」

一人ひとりの行いが、数々の本に記されている様子です。書き記されている内容に応じて裁かれます。

13 節「海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。」

船の遭難や飛行機の墜落などの事故で遺体が見つからないなど、海の中の死体が復活します。ハデスに行っていた魂も一緒に復活し、すべての体と合体します。

★ **第一コリント人への手紙 15 章 53 節-55 節**

朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた」としるされている、みことばが実現します。「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」

54 節「死ぬものが不死を着るとき、『死は勝利にのまれた』としるされている、みことばが実現します。」

死のとげは完全に破壊され、人は死に勝利します。この後は永遠に、死ぬ者はいません。

黙示録 20 章 14 節「死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。」

ご再臨直後の第一の復活にあずからなかった者たちが、審判のために復活します。これが第二の復活です。

黙示録 20 章 6 節「この人々（*信者）に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。」

信者でない者は、審判の後、火の池に入れられます。これを第二の死と呼びます。

15 節「いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」

いのちの書に名の記されていない者は、永遠に神様から離れることとなり、火の池に入れられます。

ここで、多くの人々が次のような疑問を感じることでしょう。「一生涯、福音を聞く機会がなく、神様を信じるチャンスのなかった人々はどうなるのか？ その人々が、神様を知るチャンスがなかったのに、火の池に入れられるなんて、神様は不公平ではないか？」

もし神様が公平なお方だったら、私たちはどうなっていたでしょう？

神様がアダムとエバに食べてはいけないと言ったのは、無数の木の中で一本だけでした。アダムとエバはその一本の木から取って食べました。

創世記 2 章 17 節「それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

もし、神様が公平なお方なら「自業自得だ」と言って放っておいたでしょう。しかし、ヨハネの福音書 3 章 16 節に書かれているように、神様は人を愛されたので、ひとり子イエスを送られました。

アダムとエバの過ちのせいで死が人間を支配するようになり、すべての人間が 100%死ぬ世界になってしまいました。これは神様のせいではありません。神様が公平なお方なら、命を懸けてまで、人を罪の世界から救おうとはなさいません。「神は愛なり」と聖書に記されているように、愛ゆえに救おうとなさったのです。

ローマ人への手紙 1 章 20 節「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」
アブラハムは、真の神様の存在を被造物を通して知り、信仰が生まれました。

ここからは、いよいよ永遠の神様の世界、新天新地の学びに入ります。

★ 黙示録 21 章 1 節

また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

「新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り」
今の天と地が無くなったのではなく、昔の天と地のシステムが無くなっています。

以前、神様を信じない者が出入りしていた天と地も過ぎ去りました。
新しい世界には「もはや海もない」と言っています。

イザヤ書 57 章 20 節「しかし悪者どもは、荒れ狂う海のような。静まることができず、水が海草と泥を吐き出すからである。」
海は、悪者どもによって平安が奪い取られることを例えていると解釈する神学者がいます。

詩篇 107 篇 25 節「主が命じてあらしを起こすと、風が波を高くした。」

26 節から 28 節「彼らは……深みに下り……酔った人のようによろめき……苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと」

29 節「主があらしを静めると、波はないだ。」

「もう海はない」とは、もう悪者どもはいない、もう苦しみはない、もう平安を奪う者がいない、と解釈できます。しかし、もう一つの考えが神学者によって語られています。次回はそれについて学びます。